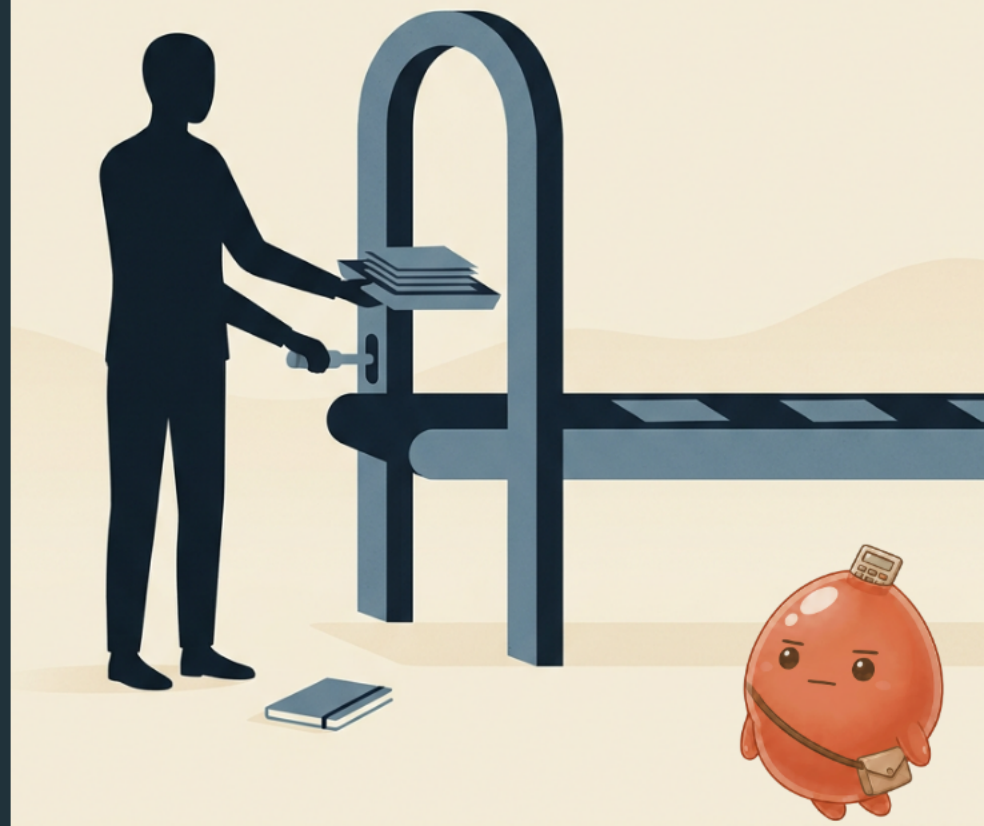


委任を広げる

どこまで任せて、どこで止めるかを、先に決める



委任を広げる＝ 全部をAIに投げる、ではない

前回の診断にあった「委任」は、どこまでAIに預けているかを測る軸だった。

ここで誤解しやすいのが、委任を広げる＝とにかく全部投げる、という発想だ。

実際はそうではない。全部投げると、高くつく失敗を何度もやり直すことになる。

どこを任せて、どこで自分が確認するかを、あらかじめ決めておくこと。



実演：塗り絵の本づくり

何十枚もある線画のうち、2枚だけ、看板の文字を消したい。
どのページを、どう直すか。下調べも下準備も、AIがやった。

だが、この生成ツールは、実行の手前で止まっている。

「これは有料の生成でクレジットを使う（2枚で約68）。進めていいか」と聞いて、返事を待っている。

スキルを実行しました /comfy-cloud-generate-image >

画像編集は「ローカル画像アップロード+ワークフロー実行」の経路になります。生成実行の直前に「クレジットを使用します、よいですか？」の確認プロンプトが出るので、そこでスクショを撮ってください。まず無料の下調べとアップロードから。

実行済み 2件のコマンド、使用済み 12個のツール（2件失敗） >

そのまま「クレジット使用の確認」が出ました。これがスクショ対象のプロンプトです 📸

CONFIRMATION REQUIRED — Generating with paid partner model `vertexai/nano-banana-pro` will spend credits from your Comfy Cloud workspace. This is a spend-gated action and was NOT performed — no credits have been spent.

コスト目安: 約34クレジット/枚 × 2枚 = 約68クレジット（2K・Nano Banana Pro）。

- P18: 左ビル縦看板の疑似日本語を消して空白パネルに
- P31: 左奥の屋台看板の疑似かなを消して空白に
- どちらも他は一切変更しない指示（線・構図・キャラそのまま、ベタ黒/枠なし）

スクショが撮れたら、「進めて」と返信ください。その一言で `confirm: true` を付けて2枚とも実行します。中断する場合はこのままで、クレジットは消費されません。



任せる範囲を、 信頼で決めない

下調べや下準備は、間違えても、やり直すのにお金はかからない。

でも、生成を実行した瞬間にクレジットが減る。方向を間違えたまま走らせれば、その分がまるごと無駄になる。

間違えたときの損害の大きさに、任せ方を変える。



コストで、任せ方を2つに分ける

低コスト・やり直せる

→ 一気に任せる

- ・ 原稿の構成案
- ・ 下調べ・下準備
- ・ 下書きのプロンプト

高コスト・後戻りしにくい

→ その手前だけ確認

- ・ 有料の画像生成の実行
- ・ 何十枚もの一括生成
- ・ 本の入稿・出版



同じ基準でも、作業で答えは変わる

「正しいチェックポイントの数」というものはない。その作業のコストを見て、そのつど決め直す。

塗り絵の本

- 1枚の生成コストが高い
- キャラや構図を都度確認
- 止まる回数は多い

この教材動画

- 1本の生成コストが低い
- 最初の方角性・絵の確認・仕上がりだけ
- 止まる回数は最小限



委任が狭い設計と、広い設計

Before：委任が狭い

- ・ ページごとに構図もキャラも全部指示
- ・ 毎回ゼロから条件を組み立てる
- ・ 止まる場所は決めていない

After：委任を広げた設計

- ・ 作りたい本の中身を伝えれば一気に進む
- ・ 案を確認してゴーサインを出す役に回る
- ・ 課金や一括生成の手前だけ止まる



委任を広げるとは、 手放すことではない

手を放していくイメージがあるかもしれない。

でも、実際にやっているのは逆で、どこが危ないかを先に見極める作業だ。

リスクの高い場所を1つ決めて、それ以外を手放す。



今日からできる一歩

見つける

高コストなポイントを1つ

自分の作業の中で、後戻りしにくい・コストが高い場所を1つ探す。

手前に置く

確認は、そこだけ

その1点の手前にだけ確認を置く。すべての工程を確認する必要はない。



今日のチェックリスト

- ・後戻りしにくい・高コストなポイントを1つ見つけた
- ・その手前にだけ確認を置く設計を考えた
- ・委任を広げる＝危ない場所以外を手放すこと

次回は、検証。

確認を毎回自分でやらず、
仕組みが勝手に動くようにする。

